



お経のことば



無想ホッシンの法身タダ。虚空ドウタイと同體ジュウシヨなれば其の住處
 無し。但衆生の心想の中に住したまう。
ブッセツショウフドウキョウ
 仏説聖不動經 訳 聖護院門跡蔵版より

今回は護国寺の本尊でもある不動明王の徳を讃える『不動經』を紹介します。

歴史的背景を踏まえた上で敢えて言うと、このお経はおそらく日本で作られたものです。そう聞くと、『仏説』とあるのは偽りではないかと疑われる方がいらっしゃるの当然のことですが、「そもそも仏教は御釈迦様お一人に収斂シュウケンされるものではない。」とよく言われているように、不動經は平安時代に遡り現在にも連綿と続く日本人の不動明王信仰に支えられた、れっきとしたお経なのです。

『仏説』が付く理由を納得していただくためには、細かい『密教』の話をしなければなりませんので、それはまた別の機会に譲らせていただきます。

さて、本題の上のことばを紐解いていくと、これは不動明王とはどんな明王なのかを説明しているわけですが、まず『無想の法身』とは、ありのままの宇宙の相（すがた）のことで、これは不動明王が大日如来の化身であるとされることに依拠しています。

次に、『虚空と同體（同体）なれば其の住處（住所）無し。』ですが、これは不動明王が虚空と同体であり、また『虚空』とはありのままの宇宙に万物が満ち溢れていることを意味し、そこから不動明王の住まう場所とは『Everywhere』、つまり全てに遍在しているという意味になります。

そして、その全てである宇宙とは我々人間一人一人の認識によって存在し得るわけですから、そこから翻って『但衆生の心想の中に住したまう』（誰もダイイヌオウの想いの中にこそ住している）になるわけです。

しかし不動明王は別名を大威怒王とも呼ばれるように、その尊顔は怒りの表情に満ちています。にも関わらず日本では深く信仰され、それは老若男女や時代性を超えて、揺るぎのない正に不動の普遍性としても顕れています。

中でも密教や修験道に於いては修行専念の本尊として位置づけられ、修験者は誰もが不動明王の真言を唱え、仏像や御影に向かって礼拝し、その憤怒の尊顔を見つめては自らの弱さを射抜かれ、またそこから精進を継続していく為の激励を貰います。

何も仏教に限らず、『祈り』という形式を伴うあらゆる宗教には、自らの至らなさを省みるという『不完全さの自覚』があり、これに対比して仏や神や真理と呼ばれるものは完全さに据え置かれています。詰まるところ、祈りとはそのふたつの間の中にこそあり、その頼りない祈りの孤独に寄り添うもの、つまり心想の中に住すものこそが、『内心は慈悲なり』とも言われる不動明王の仏徳なのです。

世間では、正面だけから見ると誰もが平気な顔で歩いているように見えて、実は人それぞれがいろんな悩みや苦しみを自らの影の中に引きずりながら歩いています。そんな我々の必死さに呼応するかの如く、不動明王は激しい怒りを以て対面してくれているのです。

「悲しめば悲しむほど優しくなれる」という言葉もありますが、そういう極地にある大慈悲の心が、不動明王の怒りとして表れているのではないのでしょうか・・・。

不動明王の『怒り』とは、実は慈悲の反対ではなく、慈悲を呼び起こす『力』なのかもしれません。



😊 楽しい行事案内 😊

- 3月21日（水）祝日 献茶彼岸会
- 4月8日（日）から月1回、仏教勉強会
- 毎月28日の9時と3時は護摩を焚いています。お気軽にお越しください。★葬儀の場合や止むを得ず中止有り



本山修験宗 大瀧山護国寺
 781-2155
 高知県高岡郡日高村九頭291
 ☎ 0889-24-7244
 ホームページ📄 gokokuji.site
 いつでも、なんでも、お気軽にお電話ください。